

第3回菊池市総合計画策定審議会 要約記録

日時:平成 26 年 8 月 29 日(金)

午後 1 時 30 分～

場所:菊池市役所 本庁 3 階大会議室

(次第)

1 開会

2 委嘱状交付

3 会長挨拶

4 議事

議事① 市民ワークショップの成果報告について

議事② 第 2 次菊池市総合計画素案について

議事③ その他

4 閉会

議事① 市民ワークショップの成果報告について

結論及び合意内容

- ・ 今回の市民ワークショップで出された、市民の関心やアイデアは、そのまま総合計画へ反映するものではなく、市民が行政と協働できる取り組みの提案として、基本計画の施策検討に生かす。
- ・ ワークショップで、協働できる市民の対象が具体化できた。成果については、施策の担当課へ伝え検討させる。

主な発言や意見、アイデアなど

- ・ 価値あるワークショップで良かった。今後は参加者の募集方法、開催回数を検討し広く意見を聴取すべき。
- ・ 159名のワークショップ参加者の意見をまとめてあるが、2時間では時間が十分に足りたとは思えない。広く市民の意見を出せる場(機会)があればいい。
- ・ 意見収集の方法は工夫が必要。他市では、公共の場にホワイトボードを設けて、ポストイットに思いを書いて張り付けるなど、だれでも自由に参加できて、市民が見ることができる手法がとられている。
- ・ 本音を出せる目安箱を設置してはどうか。
- ・ もう一回やれば、さらに深く踏み込んだ意見が出るだろう。
- ・ 市民の意見を聞き、計画に反映すると言う意味で意義があった。ただ、集まる方が地域の役職者など限界がある。様々な世代の人に参加してもらう工夫が必要。
- ・ 集約されたワークショップの結果だけでなく、具体的に何をすべきか示して欲しい。
- ・ ワークショップは3回位しないと意見が十分に出ないし、検討を重ねることで全く違った提案内容になることもある。

議事② 第2次総合計画素案について

結論及び合意内容

- ・ 任期内の委員交代のため、総合計画の「目的と役割」、「計画の構成と期間」、「基本構想」、「理念」、「市の将来像」「施策の体系」について、再度整理し認識を高めた。
- ・ 市民ニーズが高度化、多様化する中で、行政は地域のコミュニティ機能の低下にきめ細かな対応が困難になっている。そこで市民が行政の立場と特性を理解し、体制づくり(協働)の必要性を認識した。
- ・ 基本計画の各施策の内容は、現在各課のヒアリングを実施中のため、次回の審議会で提案する。
- ・ 市民協働についての取り組みや成果指標などを施策に具体的に整理する。

主な発言や意見、アイデアなど

- ・ 体系の重点戦略の中で「農業」と「観光」が同じくくりでまとめられているが、畜産業は口蹄疫などのリスクが心配。農業と観光が同時進行する場合、防疫体制を強化しなければならない。施策2の農業体制で防疫体制を記入すべき。
- ・ 人口減の状況を放置しているような印象を受けるし、将来の発展に期待が持てないので人口増に繋がる活気ある施策が必要。
- ・ 土地利用の方針について、国土利用計画や都市計画マスタープランではこの図で進めているが、新市建設計画から10年経つ。そのままではいいのか検討が必要。
- ・ 市全体に誘客するには、旧市街地ばかりの保護ではいけない。
- ・ 道路は改良されていて菊池のポテンシャルは高い。しかし人口増は全国的な問題。「癒しの里」という言葉の印象は、菊池市が持つ「癒し」のイメージが若い人から高齢者まで訴える力がある。
- ・ 農業の現実問題は後継者不足であり、新規就農者を増やす必要がある。学業でも外部に出る人が多いため、地元に残る人材の育成システムが重要。
- ・ 今回のワークショップで分かったことは、初めて体験した人が多かったことである。市民に対してまちづくりの体験や学習する機会を与える必要がある。「施策10の地域づくり活動の推進」のなかで人材育成プログラムの構築が重要。
- ・ 「文教菊池」は昔から言われていることであって、紙の上で見れば平凡。各課でインパクトのある目玉が欲しい。
- ・ 外部評価委員会で評価する目標は、進捗管理するうえで分かりやすくすべき。
- ・ 道路を発展させることは大事だが、そこで何ができるかが大事。移住者が来ても地域住民との関係が悪ければ長く続かない。ワークショップでもあったように定住するには地域の交通機能が大事で、地域全体で取り組めるよう市民の意見を集約すべき。
- ・ 菊池溪谷までの「あいのりタクシー」の利用方法についてもっと周知する必要がある。
- ・ 基本構想4章の広域連携は理解できるが、市内のコミュニティ単位や市域の記述があるべき。川筋への着目は、防災や環境についてであれば理解できる。しかし、基本構想として流域に基づいたまちづくりを行なうということではなければ、個別施策の説明箇所に入れるべきではないか。
- ・ 施策体系図の重点戦略とは、35の施策を具体的に抜粋したもの。施策を網羅するというのは重点戦略として妥当か。
- ・ 施策35の取り組み内容が示されなければ、より良い指摘はできない。
- ・ 第2次総合計画では、成果・活動の目標値を示すことになるので、施策の結果検証に有効で意義は大きい。
- ・ 7人も委員が代わるのであれば、前回の議論の記録を配布すべき。
- ・ 県道拡張に30年位の期間がかかる。道路優先ありきでは、先にまちが滅びかねない。今、住人の問題を一つ一つ解決することが重要。自分のまちの目標に沿って動くべき。
- ・ ワークショップの意見と総合計画への反映に興味があった。ピンポイントな課題であれば計画に反映しやすいが、総合計画は対象が広い。市民の意見を反映するという意気込みを大事にすべき。

- ・ ワークショップの参加が希望者ばかりだというやり方はおかしいのではないか。区長など各地区から数名程度参加者を出すほうがよい。
- ・ ワークショップの参加には2通りある。当事者や役員が入るべきという考え方、関心を持つ人が自由な意志で集まるべきという考え方。今回は、市民に広く呼びかけし、個別施策に対し市民の協力を得なければならないことについて意見を出し合ったが、住民参加のあり方やプログラムについてさらに工夫が必要。
- ・ ワークショップでは事業提案をしたが、すべての議論が尽くされたわけではない。議論した内容の取扱いは、今後の処理の中でどうするか。市民から出た意見を大事に扱うべきである。
- ・ ワークショップの原本を全て書き出して保管し、今後活かすべき。後々具体的に役に立つ時が来る。

議事③ その他

事務局より連絡

- ・ 次回の審議会は10月中旬を予定。資料は、全体的な素案を事前に郵送する。
- ・ ワークショップで出された意見は、グループ毎にまとめたものを委員へ送付する。
- ・ 次回の審議内容は、各施策についての検討になる。事前に目を通して頂き、意見を頂きたい。

以上